



# REDD+

Reducing Emission from Deforestation  
and Forest Degradation-plus

平成24年度 基礎講習

## 第9章

# 今後に向けての課題

独立行政法人 森林総合研究所  
REDD研究開発センター  
松本光朗





# 今後に向けての課題

- ダーバン合意
- BOCM/JCM
- REDD+の見通し



# COP17(2011)ダーバン合意

- 将来の枠組みに関し、全ての国が参加する法的文書を作成する新しいプロセスである「ダーバン・プラットフォーム作業部会」を立ち上げ、遅くとも2015年中に作業を終了、2020年から発効・実施に移すことに合意
- 京都議定書の第二約束期間の設定に向けた合意を採択、日本は第二約束期間に参加しないことが明記された（日本、カナダ、ロシアの数値目標は空欄）

## 二国間オフセット・クレジット制度 (BOCM/JCM)

- 日本政府は、京都議定書の外で排出削減活動を進めることを表明
- 排出削減を進めるため、二国間オフセット・クレジット制度 (BOCM)を進める意向
- 最近では共同クレジットメカニズムと併記し、“BOCM/JCM”と表記されている
- ここにREDD+を位置付ける必要



# エネルギー環境会議

- 政府は、エネルギーシステムのゆがみや脆弱性を是正し、安全・安定供給・効率・環境などの要請に対応した、短期・中期・長期からなる革新的エネルギー・環境戦略の策定を行う目的で、エネルギー・環境会議を設置
- 2012年9月14日に「革新的エネルギー・環境戦略」を策定
- ただし、政府の取扱いが不明
- 選挙後の新政権では独自方針を作成することになるだろう
- 「革新的エネルギー・環境戦略」の概要
  - 原発に依存しない社会の実現に向けた3つの原則
    - 1. 40年運転制限を厳格に適用
    - 2. 規制委員会の安全確認を得たもののみ再稼動
    - 3. 原発の新設・増設は行わない
    - 2030年代に原発稼働ゼロを可能とするよう、グリーンエネルギーを中心にあらゆる政策
    - 資源を投入。その第一歩として、政府は本年末までに「グリーン政策大綱」をまとめる。
  - 排出削減目標
    - 2030年に概ね2割減
    - 2020年に5～9%減(1990年度比)

# BOCM/JCMに向けての課題

- 全体の仕組み
  - REDD+を組み入れるか？
  - オフセット or クレジット？
- REDD+の仕組み
  - コンプライアンス or ボランタリー？
- 技術論
  - REDD+のガイドライン・方法論の開発
  - 参照レベルの考え方、作成方法

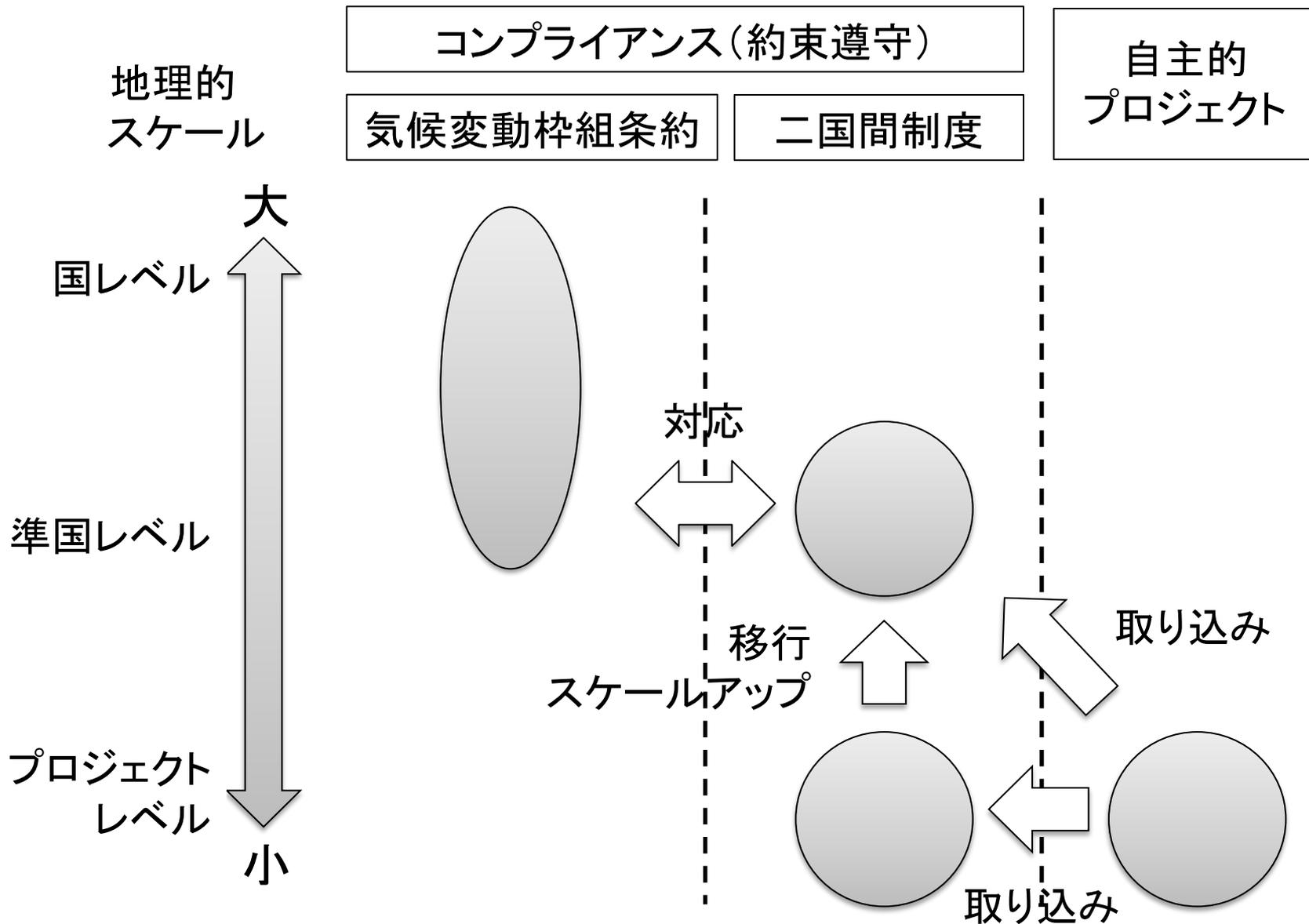
# REDD+の見通し(私見も含めて)

- 世界的な見通し
  - REDD+の議論はこれまで京都議定書次期約束期間をメドに議論されてきたが、ダーバン合意により2020年からの枠組みの下で取り扱われるという認識が広がった
  - しかし、いち早い取り組みが求められる
  - 条約での議論とは並行し、自主的な取り組みがさらに加速
  - 現状では、自主的REDD+と条約REDD+の関係はあいまい
  - 自主的な取り組みが、条約のルールに反映されることを考えると、日本も戦略的に進める必要
- 日本の見通し
  - BOCM/JCMでの温暖化対策推進が議論されている
  - ただし、選挙後の新政権での取扱いは不明
  - いずれにせよ、日本の取り組みの中にREDD+を取り込む必要
  - REDD+の制度とガイドライン・方法論を構築する必要
  - オールジャパンで取り組み、日本の方法を広げる必要
  - そのとき、自主的REDD+と条約REDD+を関係づける必要
  - それを持って次期枠組みでのREDD+のルール化に貢献



# REDD研究開発センターが開発している ガイドラインのポイント

- コンプライアンスへの移行・スケールアップ
  - 将来的に自主的プロジェクトからコンプライアンスへ移行を見越した枠組み
- 対象とする活動
  - 条約定義の5活動に相当する活動
- 参照レベル
  - スケールアップする場合の整合性と透明性・精度と労力・コストのバランスを考慮
- リーケージ
  - 算定対象とするも、労力・コストを考慮した方法。スケールアップ時の整合性
- 算定方法・モニタリング方法
  - リモートセンシングと地上調査の組み合わせ。スケールアップ時の整合性
- 追加性・非永続性
  - インセンティブの阻害とならない、労力・コストを考慮した方法
- セーフガード
- 審査期間の短期化
- 自主的な枠組みとの相互認証



# 24年度のREDD研究開発センターの活動

- 研究・開発
  - カンボジア、マレーシア、パラグアイでのMRV手法の開発
- 技術解説書（REDD Cook Book）の開発
  - 個別技術の解説書（日英）
  - 毎年改訂
- イベント
  - REDDプラス国際セミナー
    - 2012年2月7・8日（木・金）
    - 早稲田大学 国際会議場（井深大記念ホール）
  - COP18サイドイベント
    - 2012年11月28日
    - 南アフリカ・ダーバン
- 森林技術者講習 応用講習
  - プロジェクト設計書（PDD）の作成実習
    - 平成24年1月23日（水）-25日（金）
  - 高度・実践的なモニタリング手法の検討
    - 平成24年12月19日（水）-21日（金）
- 広報・情報提供
  - Web
  - メールマガジン
  - DVD作成



一緒に頑張りましょう。